



実力錬成期～秋の学習計画を練ろう～

◆10・11月の学習を冷静に考える

共通テストの志願票の提出を終え、気持ちが共通テストモードの生徒が増えてきました。受験の可否は「共通テスト+個別」の総合点で決まりますので、自分の志望大学の配点を見直しておくことは必要です。10、11月は一般的には個別試験の重点期ですが、最優先事項はそれぞれの志望校と現時点の学力で違います。右面の志望校タイプ別の対策を参考にして、自分に合った対策を見つけ、一日、一時間を大切に、効率のよい学習を目指しましょう。

◆「赤本」を活用しよう

過去問に目を通すことは、出題傾向と最終目標を知る上でとても有効です。本校でも、各大学の「赤本」の充実に努めています。積極的に利用する一方、整理整頓にも協力して下さい。また、本命校ぐらゐは身銭を切って購入し、自宅に並べると励みになりますよ！

- ・進路指導室内：最新刊含む過去約10年分（持ち出し不可、コピー機利用可能）
- ・本館4階 学習スペース：その他の余部（利用は自由、一泊のみ持ち出し可能）

◆国公立大学の公募制推薦入試の利用について

9月以降、希望者の受け付けを開始しています。メリットとデメリットをよく勘案して、上手に活用したいものです。下記について再確認してください。

①長野県内の国公立大学

- ・信州大学：本校からはここ数年、教育・医・工・繊維・経法などの学部の実績があります。
- ・長野県立大学（グローバル）：県内枠として全体で2割以上になるよう設定しています。
- ・長野大学、諏訪東京理科大学：全国的な人気、難易度とも上昇継続中。成績基準なしです。

②全国の共通テスト利用推薦 … 受験負担が少ないため、本命校での有無を確認しよう。

260名の共通テスト志願票を発送しました

9月28日（火）大安吉日、中間テスト1日目の午後に皆さんから預かった大切な志願票の郵送を終えました。当日、雲ひとつない秋空の下、T城先生とK岩井先生と私は、まず恒例の善光寺参拝。大香炉で焼香し、その煙を志願票に炊きこめました。本堂では、しっかりとお賽銭をあげてお参りした後、授与品所で「御祈祷木札（合格祈願）」も授かりました。仲見世通りを抜け、善光寺郵便局で発送して無事にミッションを完遂。

今後は、10/27（水）までに確認はがきが返送される予定です。



◆大学・入試タイプ別学習法の概要

	～11月	～共通テスト試験	～個別学力検査
共通テスト試験重視型国立大	<p>徹底的に基礎を固める</p> <p>過去に受験した模試や実力考査の解き直しをしましょう。その際、不正解の問題だけでなく、あいまいなまま正解した問題も全てチェックし、不安な分野を1つずつなくすことが大切です。共通テスト試験で確実に得点できるよう基礎力を強化しましょう。</p>	<p>共通テスト試験対策に重点</p> <p>昨年度とセンター試験も含め過去問・共通テスト予想問題の演習に取り組み、不正解箇所は、教科書の基本に戻って復習しておくことが大切です。正解箇所についても再確認し、あいまいな部分も完全に理解するよう心がけましょう。また、毎回目標時間を決め、時間を計って問題を解くようにしましょう。</p>	<p>焦らずに自分の力を信じる</p> <p>個別学力検査までの約1か月間は、志望校の出題傾向に沿った対策を徹底的に行う時期です。共通テスト試験の結果によっては出願校変更もあり得ますが、焦ることなく受験準備に取り組みましょう。自分の力を信じて最後まであきらめずがんばることが大切です。</p>
個別学力検査重視型国立大	<p>苦手分野をすべて克服する</p> <p>この時期は個別学力検査対策に集中しましょう。受験校の出題形式や傾向をしっかり確認しておくことが大切です。特に「個別学力検査に課される科目のうち最低2科目で苦手分野をなくす」ことを心がけ、徹底的に苦手を克服しましょう。</p>	<p>あやふやな知識をなくす</p> <p>この時期から学習内容を共通テスト試験対策中心に切り替えます。まずはあやふやな知識のまままで正解していたところを完全に理解することが大切です。<u>過去に受験したマーク模試の復習が効果的</u>です。また、実際の制限時間よりも少し短めに時間を設定して問題演習をするようにしましょう。</p>	<p>あきらめずに逆転をめざす</p> <p>共通テスト試験の結果に安心せず、個別学力検査までは過去問を中心に問題演習を続けましょう。たとえ共通テスト試験で失敗しても、これまでのがんばりがあれば、個別学力検査で逆転の可能性もあります。最後まであきらめない気持ちで臨むことが大切です。</p>
私立大	<p>得意科目を伸ばす</p> <p>この時期には、難易度に合わせて、受験校を数校に絞り込みましょう。学習面では、苦手な分野をなくすとともに、得意科目を1つでも多くつくるのが大切です。第1志望校の受験準備として、過去問の傾向・内容をよく調べ、類題を数多くこなして問題に慣れておきましょう。</p>	<p>基礎・基本は完璧な理解を</p> <p>共通テスト試験対策を通して、各教科の基礎・基本の強化を図りましょう。第1志望校の受験科目の中で、高得点をねらえる得意教科を持っておくと強みになります。理科、地歴・公民は教科書の基本事項から出題されることが多いので、比較的短期間で成績を伸ばすことができるかもしれません。</p>	<p>併願校の入試で予行演習</p> <p>第1志望校の受験が後半になるようにスケジュールを組み、併願校の入試を予行演習として利用するのも1つの方法です。共通テスト試験や併願校の入試で弱点が見つければ、その都度復習を繰り返し、第1志望校の入試当日に学力がピークになるように計画を立てましょう。</p>

秋の虫は弱気の虫！？

◆受験科目を減らす前に

本校の卒業生では、5(6)教科7科目型でセンター試験や共通テストを出願した生徒が多い学年は、国公立大の進学者数はもちろん、現役進学率も高い（浪人が少ない）傾向であることが明らかです。今年度も、多くは900点満点での出願となっていて一安心ですが、それでも時々「受験科目を減らしたい」という相談を受けることがあります。秋めいてきて、受験が現実的になってきたからなのかもしれませんが、共通して「少ない教科だけに集中すれば合格が近づく」「科目を絞れば受験勉強が楽になる」かのような思い込みに囚われているようにも感じます（一方、履修していない科目を自力でやろうとする猛者もいて、啞然とすることもあります）。「いいえ、私の志望校はこの科目だけでいいんです！」と力説されても、いままでより難しい大学や入試区分だけに決め込み、自分から可能性を狭めてしまう『負のスパイラル（難化のスパイラル）』に陥っているとしか見えません。あらためて、その理由を整理しておきます。

◆私立専願、3教科型・2教科型への転向

早くから私立専願に決めている人はいいのですが、国公立文系志望の諸君にこの傾向が見え始めました。首都圏の主な私立大学は、ここ数年の難化傾向は多少落ち着きつつあるものの、依然としてそう簡単に合格するものではありません。首都圏の受験生は“彼らにとっての地元の大学”に進学したいからこそ、君たちよりずっと前から科目を絞って専念しています。それに対して、地方出身の公立高校生が立ち向かう術は、国公立型にあるのです。確かに首都圏の国公立大も難しいのですが、国公立型の学習を継続した方が最終的な合格可能性は広がるといえるでしょう。これは結果として私立大学の受験にも生きてきます。本校からの受験者数・合格者数が一番多い私立大学は東洋大学ですが、昨年度の入試において4教科以上の多教科型受験者数が、2～3教科型受験者数を上回りました。さらに現在、そして今後の傾向として、文系・理系の枠組みを超えた文理融合型の学部（データや統計）や受験方式（4教科以上）が増加していくことが見込まれています。

また、「得意科目を生かす」という甘い言葉も疑問です。あなたの得意科目とは、本当の得意でしょうか？絶対的な高得点科目といえるのでしょうか？全統で偏差値60超（進研なら65超）なのですか？全国平均の学力を“得意”とは呼びません。まして、私大2教科型（同じ大学同じ学部の入試の内、最高偏差値＝最難関）への絞り込みなど論外と言えます。

◆7科目型から6科目型への転向、アラカルトの価値

理社1科目ずつの6科目型は公立大学を中心に散見されますが、結果として7科目型の大学よりも難しくなっています。また、どちらを削るのかも難しい選択です。これから集中して学習を深めると、これまで得意だと思っていた教科が並で、苦手だった科目が得意科目に伸びることは十分にありえます。また、都留文科大などのアラカルト方式（該当する受験科目の内、高得点科目を採用）の場合、絞り込みは平均点の上下の影響を受けやすくなるため危険です。科目の絞り込みが、出願可能校を大幅に減らすこと、難易度を上げること、さらには大きなリスクを背負うことになるという現実を直視してください。

◆努力した者が全て報われるとは限らない、

しかし！成功した者は 皆すべからく努力している！！

たとえば地元の信州大学教育学部の学生募集要項には、大学入学時までには身につけておくべきことに、『小学校の教員を目指す学生には、各教科に対する得手、不得手を超えて、各教科にわたる広い教養と学力を身につけていることが求め、高等学校等において、基礎的で確かな学力と専門領域を深めるための学力とを身につけておくことを望みます』と明記しています。実際、全国のほとんどの教員養成系学部は7科目型であり、配点比も変えない900点満点です（信州大学も昨年度から7科目型の学科が大幅に増えました）。

これは教育系に限ったことではありません。夏休みからようやく本格的な受験勉強の端緒についての生徒が多いのではないですか？ 厳しいようですが、学びから逃避する者、向学心のない者、学生の資質に欠ける者は進学に向きません。

◆いまは誰にとっても試練の時。弱気の虫は退治して、学習を進めよう！

本校は「晴耕雨読」のもと文武両道を標榜してきました。たとえ苦しくても、出遅れた理科・社会に追い立てられながら、英数国の力も少しでも伸ばそうと努力し続ける姿が、学習と班活動の両立に励んだ吉田生には似合います。そして、これこそが合格への近道なのです。

あなたの第一希望は、あなたが選んだ方法でしか手に入らないのです。最後の最後まで精一杯した努力の先にしか、自分が納得できる進路は拓けません。私たちにも受験生のつらさは十分に分かっています。私たちは頑張っている皆さんをずっと応援し続けます！

◆過去の「合格体験記」より

○私が受験に向けて変えて良かったことを箇条書きで紹介します。

・5時半起床10時半就寝…睡眠時間を確保して朝に暗記や演習をします。夜は眠くて効率悪かったので潔く寝ました！

・休日は近くの図書館で勉強…私は登校に約50分かかったので、近いと時間の節約になるし休日サイクルを確立できます。

・模試の復習ノート…2年3学期からやっと作成。見直しは時間がかかるのであやふやな所だけノートにまとめて、他の間違えた問題は解説にマーカーを入れました。普段からノートを見直すことが大事です。

・模試の時間配分…人によって違うので必ず研究してください。特に国語と英語は解く順番で点数が上がります。

・勉強の記録…自分で手帳を買いました。そこに勉強内容や時間を書くことで、効率をチェックしたり見返して自信に繋がったりすることができます。

○受験は自分と周り向き合える大切な時間です。自分の粘り強さが試されます。どれだけ立ち直れるかです。同時にそれを毎日支えてくれる家族と先生方、同じように立ち向かっている友達の存在に気がきます。受験は絶対に1人じゃないです。たとえ気付かなくても自分を見守って応援してくれている人がいます。くじけたら先輩方の合格体験記を読みましょう。疲れたら甘い飲み物とおやつで休憩しましょう。また頑張れるはずです。私も応援しています。

合格大学…… 静岡大学 人文社会科学部 法学科